



大切なことは「すべー!」

少し遅くなりましたが、中学一年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。中学校生活、部活、それに夜の塾の授業にはもう慣れましたか？少しづつ疲れを覚えながらも、でもきつと充実した毎日を送っていることと思います。

さて、話は学習面に移りますが、できるだけ早い段階で身に付けなくてはいけないのが「学習の習慣」です。「習慣」による学習の効果は「慣れる」と「憶える」です。

昔から「習うより慣れろ」とよく言われます。これは特に数学の計算問題や英語、国語にあてはまります。やり方を憶えるより練習量を多くすることで計算力や読解力が上がります。また、英単語や漢字は繰り返し練習することが効果的なことはよく知られています。単純な暗記に限ると、人間は記憶したものを一日で約七十パーセント忘れてしまいます。ところが、記憶した内容を繰り返し学習することで忘れる率が大幅に低くなるのです。ですから英単語や漢字は毎日練習することで深く記憶され、忘れにくくなっていきます。

計算練習や暗記などは、単純でつまらないと感じやすい作業ですが、習慣になつてしまえば意識せずに続けられるものです。



しかし、学習習慣をつけると一言で言っても簡単なことではありません。そこでおすすめなのが「帰宅速攻勉強法」です。帰ったら、TVもつけず、当然「

飯もお風呂もあとにして、制服を着たままで、玄関からそのまま机の前に直行して速攻で勉強。毎日の学習習慣ができていて、学校で成績優秀な生徒にはこのタイプが結構多いのです。昔から帰ったら直ぐに机に向かえ」とはよく言われてきたことですが、本当に効果あります。



生徒のみなさんはもちろん保護者の方もよくご存知だと思いますが、勉強は机に向かうまでが大変です。学校から帰って、ちよつとも休憩したらもう動けません。ですから、一切休憩なしで机まで行くことが大切です。いったん机に向かつてしまえば、勉強は結構続くものです。



さらに、病気で学校を休んだ日以外はかならず毎日これをやってください。例外を作らないことが習慣作りには必要です。また、時間はどれだけでもかまいませんが、最低ラインを決めて必ずそれ以上やるようにしてください。はじめは三十分からでもOKです。これも同様に例外をつくらないこと。運動会の日でも、部活がきついても、学校の授業が自習だったときでも、決めた時間以上かならずやらなければいけません。実力をつけるためには勉強内容の充実がポイントになるのですが、習慣をつけるために大切なのは決められた時間を毎回クリアすることです。

そのため、一年生のうちに習慣をつけておくことが大切です。二年生からは勉強内容の充実を考えていく必要があります。学習習慣がつかなくて悩んでいる中学生、そして保護者の皆さん、ぜひ「帰宅速攻勉強法」を試してみてください。(瀬野)

先輩・後輩

新学年がはじまり、一年生は新しく部活動に入り、二・三年生は後輩が入ってきますね。さて、創学舎ではみんなを引っ張る部長として頑張っている生徒も多いのですが、彼らに「伸びる後輩はどんな後輩か」と聞くといろいろ出てきますが、「素直に話を聞く後輩」に落ち着きます。

私は、中学二年生のころ、兵庫から千葉に転校してきました。転校しても前と同じソフトテニス部に入りました。兵庫では、コートには入れるのは一番上の学年だけなので、特に一生懸命練習した記憶はありません。一年待てば好きなだけボールを打てるようになるからです。さらに、硬式テニスを小学校で二年間やっていたので、先輩より自分の方がうまいと思っていました。当然、先輩の話は怒られない程度に右から左に聞き流していました。

さて、転校してから入部して初めて部活に参加したときに、先生から「素振りをやってみて」と言われ、やったら「それ、ラケット振っているだけでしょ(笑)」とつっこまれました。私は、「これまでの一年間、毎日百回ラケットを振っているだけだったのか。」となんだか悲しくなりました。しかし、先輩が「力が入らないように下からラケット引いて、いったん止める。膝からボール二個分前でボールをとらえる。そして、いっきに小指が耳に触れるまで振る。」素振りだけでこんなに細かく丁寧に教えてもらえたことに、なんだかうれしくなりました。私はやっとここで「これは、ちゃんと聞いて吸収しないといけないな。」と思いました。教えてくれることに感謝して、素直に聞くことは

本当に大事です。先輩になつても、素直に直す後輩には、もっと教えたいたいと思いますし、うまくなつてほしいと思います。そして、教える・素直に聞く、この関係が成り立つと、チーム一丸というのが生まれるのだと感じました。

さて、先輩のみなさん、どんな先輩になりたいですか。後輩のみなさん、どういう後輩として先輩と接していきたいですか。(大久保)



「シロとチャパと私」

私は動物が大好きです。幼い頃にペンギンを飼いたいと思っていました。年間に数千万円かかるということを知り、諦めました。ライオンを飼いたいと思ったこともありますが、ワシントン条約にひっかかるということでこれも諦めました。

私がまだ保育園児だったある日、段ボールの中で鳴いている子猫を二匹みつけました。両親にお願いをし、その猫を拾って帰り、「シロ」と「チャパ」と名付けました。

今は拾ってきたときのことも名前をつけたことも覚えていないのですが、両親から見るとシロとチャパは友達のようにいつも一緒にいたそうです。

猫はとても気分屋です。かまひすぎると嫌がるし、かまひあげないと拗ねてしまいます。私が宿題をしているとき、シロとチャパは私のところにきて、教科書の上にごろんと横たわって動こうともしませんでした。宿題が終わって遊ぼうとすると、私が何をしても無視をするのでした。

私が中学二年生のときにチャパは死んでし

まいりました。風邪をひいて、それが悪化してしまい、シロも私も友達を亡くしてしまいました。勉強が手につかず、何をすることもチャパのことが頭から離れず、辛くて辛くて毎日泣いていました。でも学校には行かないといけないし、宿題もしないといけないし、家族にも迷惑はかけられません。泣くのはもうやめようと顔を上げるときに、シロは私の目の前でごろんと横たわっていました。高校生になってからもシロはいつも私の邪魔をしてきました。学校の教科書はシロのベッドになっていました。

大学生になって一人暮らしを始めて、シロと離れて暮らすようになりました。両親は私がさみしくないようにと毎日シロの画像を送ってくれました。

私が大学四年生のときにシロが死んでしまいました。老衰でした。母からメールで知らされたときは実感が湧きませんでした。急いで実家に帰って、シロが新聞紙の上で横たわっているのを見たとき、涙が止まりませんでした。あつちでチャパに会えるといいなと思いつつも涙が止まりませんでした。

私は以前、いま自分が勉強できているのは親や先生など周りの支えがあるからだというお話をここでしました。私にとって支えになっ

ていているものの中にシロとチャパがいます。シロとチャパは言葉が話せないの、「頑張ってるね!」とか「い



つもありがとう!」とは言ってくれません。でも傍にいてくれるその存在が私の支えになっていました。みなさんには自分が安心できる人や場所があるでしょうか。「ひとり」と「ひとりぼっち」は違います。「ひとりぼっち」はと

ても悲しい響きです。「ひとりぼっち」にならないために何か大切なものを見つけてください。それは動物でも花でも本でも何でもいいのです。そして大切なものを架け橋に友達がたくさんできたらすごく素敵だと思います。新学期、新学年、新しいクラスでみなさんが大切なものを見つけれられるように、そして学校生活を楽しくしてくれることを願っています。(中野)

「数学は得意だが、国語が苦手な生徒」は必見

「うちの子は国語が苦手なので、何とかしてもらいたくて創学舎を選びました。」とおっしゃって入塾される方が最近多くなってきました。非常に嬉しい限りです。その責任を十分に感じながら、生徒指導にあたっています。皆さんのご期待に添えられるよう頑張ります。

さて、今回は「数学は得意だが、国語は苦手だ」と言っている生徒は必見です。同じように言っていた先輩たちはどのような傾向にあり、どのような形で国語の力を伸ばしていったのかを紹介します。ぜひ参考にしてくださいね。

数学が得意な生徒は、筋道を立てて考える「論理的な思考」ができます。「○○だから、○○になる。」というように根拠をもって考えることができます。この考え方は文章読解において非常に重要です。文章読解問題の解答に根拠のないものはありません。何の根拠もない問題を作ってしまったら、クレームが来ますよね。

根拠をもって解答を導くために、文章読解「解法」が存在します。これを授業で教わっているわけです。数学が得意な生徒は、比較的この「解法」を好み、いち早く身に付けます。し

かし、ここに落とし穴があるのです。これを身に付けた時点で国語の力が付いたと勘違いするのです。「解法」を身に付けただけでは力が付きません。「解法」を使って、日々実践訓練をしないと力が付きません。

では、国語の力を伸ばした先輩たちはどんなことをしていたのか。具体例を紹介します。

【中学一、二年生の場合】
毎日「必修テキスト」の文章問題を解き、授業日にノート提出をしていました。

【中学三年生の場合】
一学期中は「必修テキスト」、夏休み以降は「副教材」に毎日取り組み、こちらも授業日にノート提出をしていました。

特別な何か、大がかりな何かをやっていたわけではありません。皆さんが持っているテキストを活用し、毎日コツコツと、丁寧に、継続して取り組んでいただけです。



また、ノートチェックをすると、どういうところでつまづいているか等、現状を把握することができ、その都度、適切なアドバイスをすることができます。このようなことを繰り返していると、生徒とのコミュニケーションが増え、生徒のモチベーションアップにもつながってきます。

いかがですか。本気で国語の力を伸ばしたいと思っているならば、明日にでも国語担当講師にその旨を伝え、実行してみましよう。

最後に一言。数学が得意な生徒は、国語を得点源にすることができます。なぜなら、国語の読解問題において、「論理的思考能力」は大きな武器となるからです。あとは実行あるのみ!

(村田)

スマホ警報②

●授業で叫びつづけているからか、私が担当する生徒のスマホ利用時間が順調に減りつつあるようだ。勿論、「何かいわれるから……」と過少申告する生徒がいることは想定済みではある。

●さて、先日恐ろしい話を聞いた。「先生、スマホを八時間やっている人がいるよ。」一瞬息がとまりそうになった。詳しく話をきくと、親は「やりすぎないように」と注意はするが生徒の方が役者は上。自分の部屋で勉強道具を広げてやる。寝る時間がきたら、布団の中でやる。当然、学校では少しでも時間があればやる。勿論、授業中もスキを見てやる。……すごい!すごいすぎる!そして哀れだ。

●「親は、子供が依存しないように気をつけてください。体を張って止めてください。」と前号でお伝えしたが、一般には子供のほうが上手だ。とにかく小さいので、すぐかくせるという利点もある。まあ、親はきつとだまされているかもしれない。

●で、そのキミ。やりすぎではいけない!三十分、長くても一時間ぐらいにとどめなさい!自分の人生を台なしにしてしまうことになるよ。スマホさんまいで、勉強しない奴は、世の中に出たら誰も相手にしないよ。でも、キミの人生だからね。スマホに打ちこんで、不本意な成績をとり、不本意な進学をし、不本意な就職をし、がまんすることや努力することを知らない人間になりたかったらなれば。

(小林)

▼▲継続希望の方へ▲▼
▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
▶在籍していた教室までご連絡ください。